



本博士(後期)課程は、日本の古都・京都にあって、日本の美術教育・研究の先進的中核を担ってきた京都市立芸術大学に属する高度の美術専門研究課程である。千二百年を越える芸術文化の創造的伝統が高度に集積する京都という立地条件を背景に、最高水準の研究教育の場を提供する組織として、各領域の専門的研究とともに領域を横断する知的芸術的交流を促進すると同時に、現代社会の大きな変化をふまえ、国際交流および地域社会との交流を重視している。本博士(後期)課程の基本構想は以下の4つの柱からなる。

#### (1) 専門的研究が出会い、深化する場

本課程は、第一に、大学院修士課程等において獲得した専門的技能及び知識を、広い視野を持ってさらに深化拡充する場として位置づけられている。この目的のため、専門研究を担う14の専門領域を設けてそれぞれ独自の研究教育をすすめるとともに、全領域を美術専攻として単一組織にまとめてひとつの独立棟に配し、空間的・物理的にも交流が容易となるように工夫している。また、カリキュラム上でも相互交流と広領域的なアプローチをサポートする科目を提供する。

#### (2) 国際的な芸術教育・研究の場

本課程は、第二に、芸術研究における高度な国際交流の場として構想されている。長い歴史の中で伝統と革新がつねに共存してきた世界的にも希有な京都という古都にあって、世界に開かれた広い視野をもって次世代の芸術文化創造を担う人材を育成するため、外国人留学生に対しても特別入試を実施し、また交換留学プログラムや客員研究員の受け入れ等、国際的な芸術的学術的交流を推進する。

#### (3) 社会人再教育の場

本課程は、第三に、すでに社会人として活動している美術家・工芸家・企業等に属するデザイナーおよび研究機関等に属する美術研究者に対し、高度な水準での研究・研鑽を行う場を提供する。これは、個々の制作者・研究者それぞれが新たな研究展開をはかるとともに、彼らが活動する社会や所属する機関にその知見を還元し、創造的活力を高める上でも重要な意味を持つ。この目的のため、社会人に対して特別入試を実施する。

#### (4) 芸術と社会の交流の場

本課程は、第四に、社会や地域に開かれた高度な芸術研究機関として、展覧会やワークショップ、公開講座、地域の芸術関連産業等に対する相談事業、産学共同研究などを通して、研究成果を社会に積極的に公開する。

## 1 募集人員

美術研究科 博士（後期）課程

標準修業年限 3年

専攻	研究領域	募集人員
美術	日本画 油画 版画 メディア・アート 彫刻 ビジュアル・デザイン 環境デザイン プロダクト・デザイン 陶磁器 漆工 染織 産業工芸・意匠 保存修復 芸術学	16名

(注) 1. 出願は、一つの研究領域に限る。

2. 上記募集人員には、社会人特別選抜及び外国人留学生（若干名）を含む。

## 2 出願資格

- (1) 修士の学位を得た者及び平成26年3月までに修士の学位を得る見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると文部科学大臣が認めた者
- (4) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院において認めた者で、平成26年3月31日までに24歳に達する者

注：上記(4)の資格認定を希望する者は、出願資格認定審査等の手続きを要するため、平成25年12月26日(木)までに教務学生支援室入試担当へ必要書類を提出してください。(次ページ参照)

## 3 特別選抜（社会人及び外国人留学生）

特別選抜とは、大学院における専門教育の開放と交流を目的とし、一般選抜の学力検査のうち語学試験を免除するもので、前項2の出願資格のいずれかに該当する外国人留学生及び前項2の出願資格のいずれかに加えて下記の各号の一に該当する社会人を対象とする。

- (1) 出願時において各種の企業、研究機関又は教育機関に、正規職員として勤務し、入学後もその身分を有し、所属長より推薦を受けた者
- (2) 出願しようとする研究領域に関連した職種に3年以上の勤務経験を有すると本学大学院が認めた者
- (3) 出願しようとする研究領域に関連した創作活動を3年以上行っていると本学大学院が認めた者

注：出願資格 2(4) 及び特別選抜に該当する者は、出願資格認定審査等の手続きのため、平成25年12月26日(木)[必着]までに教務学生支援室入試担当へ下記の書類を郵送または配送すること(持参不可)。封筒表面に「特別選抜希望」と朱書してください。結果は平成26年1月22日(水)までにお知らせします。

- [提出書類] ○履歴書(卒業・修了後の経歴を具体的に記載したもの。押印のうえ、写真を貼付)  
○業績書(志望研究領域、著書、論文、展覧会出品歴、受賞歴等を記載したもの)  
(A4縦長・横書)  
○所属長の推薦書(特別選抜(1)に該当する者のみ)  
○日本語能力証明書(外国人留学生のみ)  
(公的機関又は学習した機関による証明書。学習期間が記載され、読む能力、書く能力、話す能力ごとにレベルのわかる内容のもの)

#### 4 出願手続

- (1) 受付期間 平成26年(2014年)1月27日(月)～1月30日(木)[期間中の消印を有効とします。]  
(2) 出願方法 下記提出書類一式を必ず速達・簡易書留で郵送、または宅配業者により配送してください。(直接大学に持参されても受け付けません。)封筒の表に「美術研究科博士(後期)課程入学願書在中」と朱書きしてください。  
(3) 送り先 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6  
京都市立芸術大学教務学生支援室入試担当  
TEL 075-334-2238

#### 5 出願書類等

- (1) 入学願書(本要項に綴り込んであるものを使用する)  
記入する氏名は戸籍名と同一のこと。外国籍の場合は、住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。  
※ 入学願書に記載された個人情報を受験手続のために使用し、それ以外の目的には利用しません。  
(2) 成績証明書  
修士課程(またはそれに相当する課程)における成績証明書  
(3) 修士課程(または博士前期課程)修了(また修了見込)証明書  
(4) 写真  
出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもの2枚(4cm×3cm)を受験者写真票及び受験票に貼付してください。  
(5) 入学考査料 17,000円  
ア 綴り込みの「郵便振替払込用紙」により、郵便局窓口(ATMからの払い込みは不可)へ払い込んでください。(要手数料)  
イ 払込みと同時に郵便局より交付される「郵便振替払込受付証明書」を提出してください。  
ウ 願書提出後、考査料は一切返還しません。  
(6) 返信用封筒  
綴り込みの定形封筒(長形3号)の宛名に志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し、650円切手(速達・簡易書留)を貼付してください。

注：本学修士課程修了者及び修了見込者は、上記(2)及び(3)を提出する必要はありません。

## 6 受験票

提出書類を完備し、上記の出願手続を行った者には、本学から受験票を送付します。

受験票が平成26年2月21日(金)までに到着しない場合は、教務学生支援室入試担当まで電話で問い合わせてください。

## 7 試験会場 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京都市立芸術大学

## 8 選抜試験内容及び試験日程等

### (1) 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(作品、論文、語学、口述)、提出書類を総合して行います。

なお、語学試験を受験しなかった場合は、口述試験の受験はできません。

ただし、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜資格認定者については、語学試験を行いませんので、この限りではありません。

### (2) 作品及び論文の提出

提出小論文〔全研究領域共通内容〕

以下の各項目について述べよ。

- (1) これまでの制作・研究をふまえて、現段階での研究テーマと問題意識  
(研究テーマと関連する写真図版3点以内をふくめること) 2000字以上
- (2) 博士課程3年間の制作・研究の計画  
(各年次ごと具体的に) 2000字以上

### 各研究領域の提出物内容

研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容、規格等
日本画	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文(提出部数: 3部)</li> <li>(1) } 上記, 全研究領域共通</li> <li>(2) } 内容について述べよ。</li> <li>・作品ファイル</li> <li>可能な限り右記提出書類を含むものとする。</li> </ul>	3/3(月)	作品3点(100号～150号) (過去2年以内に制作したもの) 提出作品についてのデッサン, 素描, スケッチ等 20枚
	送付のみ 持参不可		搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
油 画	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文(提出部数: 3部)</li> <li>(1) } 上記, 全研究領域共通</li> <li>(2) } 内容について述べよ。</li> <li>・ポートフォリオ 1冊〔作品写真ファイル, ドローイングなどA1(594mm×841mm)以内〕※全て2年以内に制作したものに限定。</li> </ul>	3/3(月)	作品5点(227cm×182cm以内) (過去2年以内に制作したもの)
	送付のみ 持参不可		搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3(月) 受験者全員の口述試験終了後
版 画	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文(提出部数: 3部)</li> <li>(1) } 上記, 全研究領域共通</li> <li>(2) } 内容について述べよ。</li> </ul>	3/3(月)	作品10点をJPEG形式でCD-ROMにして提出(過去2年以内に制作したもの)
	送付のみ 持参不可		搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後

研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容, 作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容, 規格等
メディア・アート	出願時 1/27(月)～ 1/30(木) 送付のみ 持参不可	・小論文 (提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真及び写真資料 (5点以内)	3/3 (月)	DVD, CD-ROM のいずれかのメディアにまとめたもの (30分以内)
彫 刻	出願時 1/27(月)～ 1/30(木) 送付のみ 持参不可	・小論文 (提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル (過去5年以内に制作したもの)	3/3 (月)	映像による提示が必要であればメディアを持参すること。(DVDプレイヤー, プロジェクターはこちらで用意します)
ビジュアル・デザイン	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文 (提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ (A2サイズ) または論文3点	3/3 (月)	作品3点以上 (過去5年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3 (月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3 (月) 口述試験終了後
環 境 デザイン	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文 (提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。  ・専攻小論文 各課題内容に関連し論ずること。(各2000字) 1: 地球環境問題に関する環境デザインの課題 2: 伝統文化に関する環境デザインの課題 3: 環境デザインが果たす社会的役割 必要に応じて写真図版 (文字数には含めない) を使用すること。  ・作品ファイル等 A: 作品ポートフォリオ: A3ファイル B: VTR, アニメーション: CD-R, DVD に収録のこと。 Bは補足的に使用できる。	3/3 (月)	作品3点以上 (過去5年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3 (月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3 (月) 口述試験終了後
プロダクト・デザイン	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文 (提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ (A3サイズ) または論文3点	3/3 (月)	作品3点以上 (過去5年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3 (月) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3 (月) 口述試験終了後



研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容、規格等
陶 磁 器	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 過去5年以内に制作したもの (10点以上)著書,論文があれば 添付のこと。	3/3(月)	作品3点以上 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
漆 工	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 著書,論文があれば添付のこと。	3/3(月)	代表作3点 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
染 織	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 著書,論文があれば添付のこと。	3/3(月)	作品3点 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
産業工芸・ 意 匠	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイルまたは論文・ 著作3点及びその題目リスト 可能な限り右記提出作品を含む ものとする。	3/3(月)	作品3点
			搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
保存修復	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル	3/3(月)	模写作品2点 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3(月) 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3(月) 口述試験終了後
芸 術 学	出願時 1/27(月)～ 1/30(木)  送付のみ 持参不可	・小論文(提出部数:3部) (1) } 上記,全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。  ・論文 (ア) 修士課程を修了した者,または修了見込の者は,修士論文の写しを提出の こと。 なお,修士課程を修了した者は,修了後の研究成果,もしくはそれをまと めたもの(20,000字以内)を添付してもよい。 (イ) 上記以外の者は,30,000字以上の論文・著作,またはその写しを提出のこと。 (ウ) (ア)または(イ)のレジメを(4,000字程度)添付のこと。 ※本学修士課程修了者及び修了見込の者は,修士論文の写しの提出を要しない。		

ア 論文,小論文はA4サイズとし,必ず表紙をつけて,表題・氏名・志望研究領域を明記してください。

イ 論文,小論文,作品写真ファイル,その他の著作物については,必ず出願受付期間内に送付してください。直接持参されても受領しません。

ウ 3月3日(月)に提出及び引き取りを行う作品については、配送業者を利用する場合でも、当日に必ず本人が立ち会って行ってください。搬入・搬出場所及び時間帯については、受験票発送時に指定します。前日までに宅配便等で送付しても受領しません。

(3) 試験日程及び試験内容等

[全研究領域]

日 時	試 験 の 内 容 等
3月3日(月) 10:00~11:00  12:30~	語学試験(共通) ※辞書持込不可 英語, フランス語から1か国語選択 口述試験(各研究領域にて)

## 9 合格発表

平成26年(2014年)3月6日(木)午後3時(予定)に本学正門前に掲示し、合格者には文書で通知します。

電話等による問い合わせには、一切応じません。

## 10 入学手続

合格者は、次のとおり入学手続を行ってください。詳細は合格通知書と共に送付します。

- (1) 入学手続期間 平成26年(2014年)3月下旬  
 (2) 場 所 京都市立芸術大学教務学生支援室入試担当  
 (3) 入学料の納付 市内出身者 282,000円  
 市外出身者 482,000円

注意・市内出身者とは、入学前年の4月1日以前から引き続き京都市内に居住し、住民票の写しにより証明される者。

- (4) 誓約書の提出(正・副保証人)

[参考] 授業料 年額535,800円(前期, 後期に分割納入することができます)

注:上記の入学料及び授業料は、平成25年度入学者の場合であり、料金の改定があった場合は、合格者に通知します。



## 11 履修課程及び修了要件

### 履修課程

履修区分	授 業 科 目	履 修 単 位		
		小 計	中 計	合 計
必修科目	総合制作・理論演習	2	3	11
	造形計画論研究	1		
	研究領域研究指導			
選択必修科目	領域研究演習	8	8	

### 〔履修方法及び修了要件〕

必修科目のうち、「総合制作・理論演習」及び「造形計画論研究」2科目計3単位，選択科目から「領域研究演習」8単位以上を修得し，「研究領域研究指導」により博士論文等を作成・提出して，審査及び最終試験に合格すること。

## 12 授業等の内容

### (1) 総合制作・理論演習（ゼミ形式での演習発表）

本演習は、学生各自の専門テーマを深化発展させるとともに、領域をこえた交流の場として、制作理論上の新たな展開をうながすことを目的としている。学生は、指導教員を含む他の教員、学生等の前で自己の研究成果を発表し、ディスカッションを行う。博士課程在籍中に学生は2回の発表をおこなわねばならず、特に2回目は学位申請にむけて重要な意味を持つ。

### (2) 造形計画論研究

博士課程担当教員が分担して毎週1回の授業をうけもち、各専門領域ないし広領域の芸術上の諸問題について講義やディスカッション等を行う。また論文作成技術等に関する講義も組み込まれ、レポートが課される。

### (3) 研究領域研究指導（博士論文・作品指導）

作品制作を含めて、博士論文等を作成するために必要な研究指導がなされる。各学生に応じた指導スタッフが確立され、学生は定期的に研究計画書と研究報告書を提出することが義務づけられている。

### (4) 領域研究演習（専門研究）

各学生がそれぞれの研究領域において自己の研究を展開していくための演習であり、主任指導教員を中心に、当該領域に属する他の教員も副指導教員として加わって指導にあたる。学生は半期ごとの授業を4回（8単位）履修する。それぞれの内容に応じて副指導教員を変えることもできる。

☆印は、平成27年(2015年)3月31日に定年退任予定の教員を示す。

☆☆印は、平成28年(2016年)3月31日に定年退任予定の教員を示す。

研究領域・担当教員	研究指導内容
日本画  宮本 道夫 教授☆ 西田 真人 教授 浅野 均 教授 綾田 勝義 教授 小池 一範 准教授 日影 圭 准教授 川嶋 渉 准教授 小島 徳朗 講師	日本画の技術と理論の研究を通して日本画の創作を研究する。伝統的基盤を踏まえ、技法及び理論面での高度の研鑽を積み、新たな日本画の創造をはかる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本画技法を基盤に、日本を中心とする東洋の絵画模写の制作研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに構図法、綿布・紙本膠彩技法による制作研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに構図法、紙本膠彩技法による制作研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに構図法、膠彩技法による制作研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに膠彩技法の展開についての研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに紙本膠彩技法によるマチエールの研究</li> <li>● 日本画制作一般、並びに紙本膠彩技法による表現研究</li> <li>● 岩彩表現における、多元的可能性考察に基づく制作研究</li> </ul>
油画  Simon Fitzgerald 教授 赤松 玉女 教授 石原 友明 教授 渡辺 信明 准教授 法貴 信也 准教授 金田 勝一 准教授 (着 任 予 定)	油画を中心とした技術による実技と理論の研究を通して絵画の創作を研究する。絵画表現の理論研究とともに、目的に応じた絵画材料や基底材（壁面を含む）の使用法について広汎かつ高度な研究を行い、新たな絵画世界の創造をはかる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 絵画を中心とした技法による作品制作研究</li> <li>● 絵画（壁画を含む）を中心とした技法による作品制作研究</li> <li>● 絵画（映像を含む）を中心とした現代的な表現による作品制作研究</li> <li>● 絵画を中心とした技法による作品制作研究</li> <li>● 絵画を中心とした技法による作品制作研究</li> <li>● 絵画を中心とした技法による作品制作研究</li> </ul>

研究領域・担当教員	研究指導内容
版画  出原 司 教授  大西 伸明 講師 (着 任 予 定)	<p>版画の諸技法と理論の研究を通して版画の創作を研究する。「版」特有の表現方法の研究とともに、技法の広汎かつ高度の研究を行い、新たな「版」表現の創造をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リトグラフ及び版画制作に関わるコンピュータ・プロセスを中心とした作品制作研究</li> <li>● 銅版画及び併用技法・混合技法に着目した作品制作研究</li> </ul>
メディア・アート  砥綿 正之 教授 高橋 悟 教授  石橋 義正 准教授	<p>映像、コンピュータ、音響などを含む表現媒体を用いたメディア・アートの創作を研究する。表現媒体としてのメディアそのものの理論的考察を踏まえ、現代的な多様なメディアについて広汎かつ高度な研究を行いつつ、新たな表現世界の創造をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 映像、コンピュータ等を用いたメディア・アートの制作研究</li> <li>● 造形メディアによる芸術表現全般の問題をふまえ、身体、空間、時間等を用いた制作研究</li> <li>● 映画・映像作品、舞台、パフォーマンスの研究</li> </ul>
彫刻  中ハシクシゲ 教授  松井 紫朗 教授  中原 浩大 教授  小山田 徹 准教授 金氏 徹平 講師	<p>彫刻の実技と理論の考察を通して、彫刻の創造研究を行う。空間的、立体的表現に関する理論の研究とともに、表現意図に応じた素材、技術の広汎かつ高度な研究を行い、空間や立体に作用する諸要素も計測に入れて、新たな彫刻表現の創造をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 彫刻の特に制作に関わる場と時間から、歴史や文化との接点を見い出し、その関係性の中から芸術の意味を探る制作研究</li> <li>● 彫刻における複数の視点による空間の分節化と、それらに関係づける媒体の制作研究</li> <li>● 現代の社会における芸術活動の“ Another Model ”についての彫刻領域及び脱領域的アプローチによる制作研究</li> <li>● 共有空間をキーワードに、様々な場の開発を研究</li> <li>● 現代社会における空間や事物の新たな関係性についての制作研究</li> </ul>
ビジュアル・デザイン  辰巳 明久 教授  滝口 洋子 教授 舟越 一郎 准教授 (着 任 予 定)	<p>人間社会における視覚を中心とした情報伝達に関し、表現・理論の両面から広汎かつ高度な実践的的制作研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グラフィックデザイン全般とデジタルコンテンツの活用に関する制作研究</li> <li>● ファッション、テキスタイルデザインに関する制作研究</li> <li>● グラフィックデザイン全般に関する制作研究</li> </ul>

研究領域・担当教員	研究指導内容
<p>環境デザイン</p> <p>堀口 豊太 教授</p> <p>藤本 英子 教授</p> <p>(着任予定)</p>	<p>環境デザインに関する実技と理論の研究を行う。対象範囲は、生物の棲息環境の全てとし、空間領域をデザイン対象とする。地球環境問題、歴史学をも視野におき、社会環境、生活環境の現状と動向の理論的研究及び実証を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築デザイン、インテリア・デザイン、商環境デザインに関する計画・制作・歴史的展開についての研究</li> <li>● 広域的な景観から、公共空間を中心とした身近なまちづくりまで、地域社会と結びついた環境デザインを人、経済、社会との関連から研究</li> </ul>
<p>プロダクト・デザイン</p> <p>小山 格平 教授☆☆</p> <p>塚田 章 教授</p> <p>高井 節子 准教授</p>	<p>我々の日常生活に広く存在する工業製品のデザインについて理論的研究を行うとともに、資源問題、エネルギー問題等々、現在の社会的諸問題を踏まえて「人とモノの適切な関係」を軸に工業デザインの実践的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 工業製品が生活や社会に及ぼす影響を考慮しながら、様々な分野に関する工業デザインの理論と実践</li> <li>● プロダクト・デザインに関する研究、制作及び伝統工芸の産業化等に関する研究</li> <li>● モノのデザインを通じた生活環境の構成と総合的なデザインの研究</li> </ul>
<p>陶磁器</p> <p>秋山 陽 教授</p> <p>長谷川直人 教授</p> <p>重松あゆみ 准教授</p> <p>森野 彰人 准教授</p> <p>(着任予定)</p>	<p>陶磁素材による創作とその理論を研究する。伝統的な陶磁器制作の研究を踏まえ、新たな視点から技法研究や陶磁素材を用いた表現の理論的研究を行い、現代における陶磁表現の実践的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 陶磁的しくみが内包する物質・空間・時間についての諸課題を考察し、今日的創造につなげていく制作研究を指導</li> <li>● 陶磁器による表現に関して、焼成や素材の探求という側面を中心に指導</li> <li>● 陶磁器による表現に関して、造形と色彩の観点から考察し、創造的作品制作の研究を指導</li> <li>● 陶磁器の幅広い技法と表現を「装飾」や、「近代京焼の歴史」の観点から考察し、創造的作品制作の研究を指導</li> </ul>
<p>漆工</p> <p>栗本 夏樹 准教授</p> <p>安井 友幸 准教授</p> <p>笹井 史恵 講師</p> <p>大矢 一成 講師</p>	<p>漆を素材とした創作とその理論を研究する。伝統的な漆工制作の研究を踏まえ、塗装方法の比較研究と広く漆を用いた表現の理論的研究を行い、現代的な漆芸作品の創作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 漆造形の可能性と加飾技法に関する実技的な研究</li> <li>● 漆造形の可能性と乾漆技法を主とする素材の実技的な研究</li> <li>● 漆造形の可能性と髹漆技法に関する実技的な研究</li> <li>● 漆と木を活かした造形制作と技術・表現に関する実技的な研究</li> </ul>
<p>染織</p> <p>ひろいのぶこ 教授</p> <p>三橋 遵 教授</p> <p>藤野 靖子 准教授</p> <p>日下部雅生 准教授</p> <p>藤井 良子 講師</p>	<p>染織に関する創作とその理論を研究する。伝統的な染織制作の研究を踏まえ、新たな視点からの技術研究及び広く繊維を用いた表現の研究など、現代的な染織作品の創造及び理論の研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 繊維を主たる素材とし、織の技法を中心とした創作に関する実技研究</li> <li>● 染技法を中心とした表現・創作に関する実技研究</li> <li>● 織技法を用いた創作に関する実技研究</li> <li>● 型染による創作に関する実技研究</li> <li>● テキスタイルデザインおよび染織技法・素材の活用に関する制作研究</li> </ul>

研究領域・担当教員	研究指導内容
<p>産業工芸・意匠</p> <p>ひろいのぶこ 教授(兼任)  栗本 夏樹 准教授(兼任)  森野 彰人 准教授(兼任)</p> <p>小山格平 教授(兼任)☆☆</p> <p>塚田 章 教授(兼任)</p> <p>辰巳 明久 教授(兼任)</p> <p>滝口 洋子 教授(兼任)</p>	<p>地域特有の産業活動にふさわしい形態デザイン，装飾デザインの実技と理論を研究する。伝統的な工芸意匠，加飾などデザインの研究とその応用化，産業化についての検証を行い，京都デザイン，日本的デザインなど工芸意匠の創造的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 染織・テキスタイルにおける素材や技法と作品制作の研究</li> <li>● 漆工における用途性のある作品制作</li> <li>● 陶磁器の幅広い技法と表現を「近代京焼の歴史」「道具」「技術」「生産」の観点から考察し，創造的作品制作の研究を指導</li> <li>● プロダクト・デザインの観点から伝統産業領域での意匠・デザインの研究</li> <li>● プロダクト・デザインの観点から伝統産業領域での意匠・デザインの研究</li> <li>● ビジュアル・デザインの観点から伝統産業領域における意匠・デザインの研究</li> <li>● ファッションデザイン及びテキスタイルデザインの観点から伝統産業領域における意匠・デザインの研究</li> </ul>
<p>保存修復</p> <p>宇野 茂男 准教授</p> <p>高林 弘実 講師  定金 計次 教授(兼任)☆☆</p>	<p>文化財の保存及び修復の技術とその理論の研究を行う。日本，東洋の絵画を中心に，文化財の模写，復元を含む修復研究の実技的研究を行うとともに，保存修復に関する素材・技法についての科学的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保存修復技術に関して全般的な指導を行うとともに，特に，日本，東洋の絵画を中心とした修復・復元技術に関する実技的な指導</li> <li>● 保存修復に関する素材・技法についての科学的研究</li> <li>● 東アジアから南・西アジアに互る，保存修復に係わる絵画技法の歴史的研究</li> </ul>
<p>芸術学</p> <p>定金 計次 教授☆</p> <p>伊東 徹夫 教授☆☆</p> <p>横田 学 教授  三木 博 教授  吉田 雅子 准教授  加須屋明子 准教授  田島 達也 准教授  礪波 恵昭 准教授  深谷 訓子 講師  (着 任 予 定)</p>	<p>芸術現象を対象とした芸術学の理論的研究を行う。芸術現象を対象とした理論的研究，歴史的研究や芸術環境に関する理論的研究，芸術振興に関する研究及び芸術形態に関する高度な理論研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インド，中央アジア，中国を中心とした東洋美術史及び比較美術史的視点からの日本美術史の理論的研究</li> <li>● 工芸史の分野全般における理論的研究。特に陶磁器工芸史の比較論的研究</li> <li>● 美術教育の視点からの芸術の普及，振興の問題の理論的研究</li> <li>● 美的人間形成論に基づく教育人間学の研究</li> <li>● 工芸史の分野全般における理論的研究。特に染織工芸史の比較論的研究</li> <li>● 現代美術全般，中東欧の近現代美術ならびに美学・芸術学の研究</li> <li>● 日本絵画史全般の歴史的研究</li> <li>● 日本彫刻史全般の歴史的研究</li> <li>● 西洋美術史全般の歴史的研究および西洋近世の美術理論研究</li> </ul>

論文指導教員	定金 計次 教授☆	伊東 徹夫 教授☆☆	横田 学 教授
	三木 博 教授	井上 明彦 教授	吉田 雅子 准教授
	田島 達也 准教授	加須屋明子 准教授	礪波 恵昭 准教授
	高橋 成子 教授	藤原 隆男 教授	上 英俊 講師
	玉井 尚彦 講師	深谷 訓子 講師	(着 任 予 定)



## 論文博士について

本学には、博士(後期)課程を経ての学位取得とは別に論文博士の制度が設けられています。

本学の博士(後期)課程を経ない者であっても、本学の博士(後期)課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認され、博士論文の審査に合格した者に対して博士の学位を授与するものです。

なお、博士論文審査に申請する際、博士論文審査手数料として57,000円が必要となります。

また、博士論文審査の申請に先立ち、博士論文の主題等に適合する領域の教員に連絡を取り、論文の出願をしたい旨、相談して下さい。本学の教員については、本学ホームページ「美術学部・大学院」のページで確認することができます。

論文博士に関するお問い合わせ先

京都市立芸術大学 教務学生支援室 美術教務担当

Tel : 075-334-2220 Fax : 075-334-2345

E-mail : [fineart@kcua.ac.jp](mailto:fineart@kcua.ac.jp)

※論文博士以外の問い合わせについては、教務学生支援室入試担当までお願いします。

平成26年度京都市立芸術大学大学院

受験番号

美術研究科 博士(後期)課程 入学願書

出願の種類 (○で囲む)	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜		
志望研究領域 (○で囲む)	日本画 油画 版画 メディア・アート 彫刻 ビジュアル・デザイン 環境デザイン プロダクト・デザイン 陶磁器 漆工 染織 産業工芸・意匠 保存修復 芸術学		
氏名	フリガナ	男	生 年
		女	月 日
現住所	〒 ( ) 自 宅 TEL ( ) - 緊急連絡先 TEL ( ) - E-mail		
語学受験科目 (一般選抜志願者のみ)	英語 フランス語 から1か国語を○で囲む。		
志願する研究領域において、主に行いたい研究について簡潔に述べること。			



平成26年度

受験者写真票

京都市立芸術大学大学院美術研究科  
博士(後期)課程 美術専攻

受験番号

研究領域

フリガナ

氏名

19 年

月

日生

男・女

見

本

写真貼付欄



平成26年度

受験票

京都市立芸術大学大学院美術研究科  
博士(後期)課程 美術専攻

受験番号

研究領域

フリガナ

氏名

19 年

月

日生

男・女

見

本

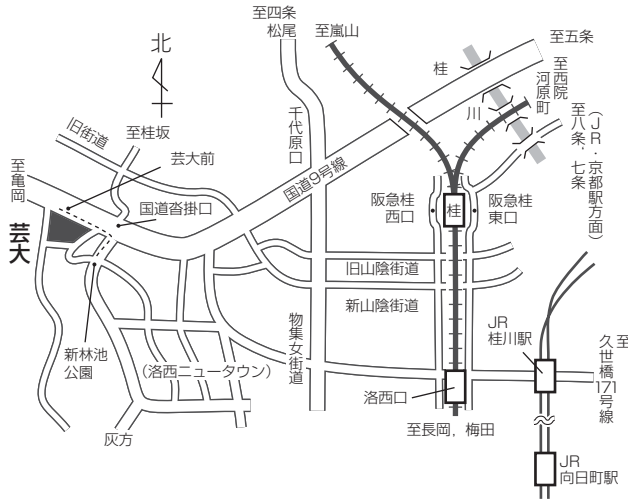
写真貼付欄



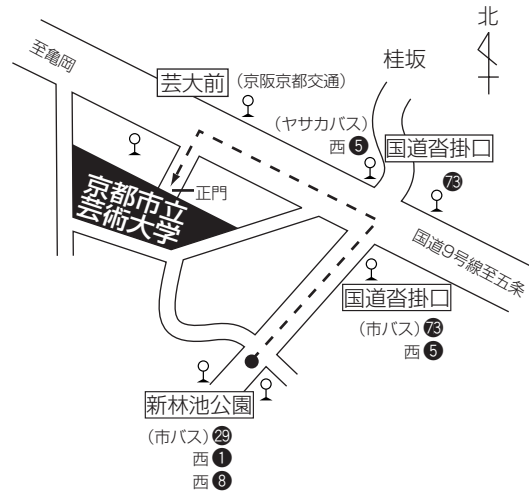
## 試験会場

京都市立芸術大学（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

### ◆試験会場への略図



### ◆試験会場周辺略図



### ◆試験会場への交通機関

平成25年11月1日現在

主要な駅	のりば	バスの種類	乗車時間	最寄りのバス停	バス停から大学までの所要時間
JR 京都駅	C2 のりば	京阪京都交通バス (2・14・28A 系統)	約 45 分	芸大前	徒歩すぐ
	C5 のりば	市バス (73 系統)	約 45 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
阪急烏丸駅	四条烏丸 D のりば	市バス (29 系統)	約 50 分	新林池公園	徒歩約 20 分
阪急桂駅	桂駅東口 ② のりば	京阪京都交通バス (1・2・13・14・25・28A 系統)	約 20 分	芸大前	徒歩すぐ
		市バス (西 1 系統 ※昼間は西 8 系統)	西 1 は約 20 分 西 8 は約 25 分	新林池公園	徒歩約 20 分
	桂駅西口	市バス (西 5 系統)	約 20 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
JR 桂川駅 (阪急洛西口駅経由)		京阪京都交通バス (11A 系統)	約 15 分	芸大前	徒歩すぐ
JR 向日町駅 (JR 桂川駅・阪急洛西口駅経由)		ヤサカバス (1 号系統)	約 25 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分

#### 【注意】

- 1 交通機関の利用については、路線及びダイヤの変更に留意するとともに、周辺の交通事情等を事前に把握し、試験当日、指定の時刻に遅れることのないよう注意してください。
- 2 バスは京阪京都交通の利用が比較的便利です。

平成25年（2013年）12月  
 京都市立芸術大学 教務学生支援室 入試担当  
 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6  
 Tel 075-334-2238 Fax 075-334-2281  
<http://www.kcuu.ac.jp>

